

スマイル～バック・トゥ・ライフ

～学習障害に苦しむ子どもたちの識字能力の向上（第2期）～

Sri Lanka / スリランカ

氏名 Nilani Chandrika Weragoda ニラーニ（5期）

所属団体 シットルタ児童発達財団



新型コロナウイルスの影響と政治による情勢不安により学習機会を失われ、いままも学習の遅れに苦しむ子どもがいます。子どもたちに学ぶことの楽しさを伝え、学習を続けていけるよう支援を行いました。

所属組織の概要

家庭内暴力や人身売買の被害者たちをトラウマから立ち直らせるための心理社会的サービスの提供、弱い立場の子どもと高齢者への支援を実施しています。また、個別のニーズに基づいたサービス提供だけでなく、新たな社会福祉の問題などにも対応できるよう、本会スタッフや仲間の支援者たちの専門性を高める研修プログラムを実施しています。

事業の目的

スリランカでは、新型コロナウイルスの影響と政治による情勢不安により、多くの子どもの学習機会が失われてしまいました。特に、新型コロナウイルスのパンデミックにより学校が閉鎖されていた約2年間、教育当局はオンライン授業を実施していましたが、貧しい家庭では子どもを参加させることができませんでした。そこで、2022年度から、学校が閉鎖されていた2年分の学習を取り戻すために本事業をスタートし、今回が第2期となります。

現在も学習の遅れに苦しむ子どもたちの識字能力を向上させ、ドロップアウトすることなく学習を続けることができること、特別な支援を必要とする子どもたちの学びを守ること、児童支援サークルをつくり継続させることを目的に実施しました。



たのしく学習する工夫をしています

活動地域

本プロジェクトは、スリランカ西部州ガンパハ郡アッタンガラ地方のダンヴィラナ、ヴィヤレゴダ、メダワッタの3つの村に住む、生活基盤の弱い家庭の子どもたちに対して実施しました。

対象者

対象地域の3つの村の子どもたちは、毎週日曜日にダンヴィラナにあるジナラジャ寺院の宗教学校（仏教学校）に通っています。本財団では、設立当初からこの寺院でさまざまな地域開発と子どもたちへの支援プログラムを実施してきました。

本事業では、この日曜学校を通じて、生活に困窮している家庭の子どもたちのためにプログラムを実施しました。今期は、子ども74名（5～14歳）、親41名、コミュニティ・リーダー23名、日曜学校教師12名、小学校教師3名、政府の担当者3名が参加しました。



事業の成果

まず、子どもたちにさまざまな変化、成果がありました。読み書きができない子どもが教科書を読むことができるようになったり、喜んで本を読むようになったりしました。語学学習に積極的に取り組むことで、さまざまな活動に参加できるようにもなりました。プログラムのなかでは、友人とともにさまざまな遊びやゲームを通じて、感情をコントロールする方法についても学んでいます。学校や家庭で起こる問題を受け止め、自分の感情を表現できるようになりました。子どもたちから大人への信頼が高まったように思います。

次に、プログラムを通じ、子どもへの支援体制が強化されました。今回のプログラムに関するモニタリングは、教師によって継続しています。子どもの心のケアを行うためのカウンセリングチームができ、子どもがいつでも相談できる体制ができました。コミュニティ・リーダーたちが、定期的集まり、進捗状況や課題を共有するようになりました。さらに、解決が難しい課題のある子どもに対しては、家庭訪問を実施する等、状況に応じた適切なケアを実施しています。

実施内容

子どもたちに対して、「学ぶのは楽しいことである」ということを理解してもらえるようにプログラムを進めました。そこで、まずは教える側の大人に対するフォローに力を入れ、子どもに対する頑固な態度を改め、子どもが楽しく意欲的に学習できるよう基盤をつくりました。また、子どもに対しても、語学学習だけではなく、生きていくうえで必要な知識が得られるようなプログラムをつくりました。

2023年6月

教材の見直し、フォローアップに向けた準備

教師向けの教材について、前期に使った内容を見直しました。子どもへの接し方等についてフォローアップができるよう準備しました。

2023年6月～12月

キャッチアップ・クラスの実施、運営

キャッチアップ・クラスは、寺院の宗教学校で実施している「日曜学校」に通う生徒を対象に、学習に遅れがある生徒への補講として毎週火曜日、木曜日、日曜日に実施しました。まずは、開始時点の子どもの読み書きの能力を保護者と子ども自身に認識させることからスタートします。子どもの状況に応じて学力向上計画を作成し、計画に沿って学習を支援しました。キャッチアップ・クラスでは、日曜学校のなかで学力があり、読み書きが上手にできる仲間の子どもたちもメンターとして働きます。キャッチアップ・クラスの教師は2週間ごとに集まり、進捗と課題を共有し、その後の学習計画を見直しました。

2023年6月、8月、10月、12月

児童支援サークルの立ち上げと運用

児童支援サークルは、子どもたちへの支援を検討し実施していく重要な機能を持っています。このサークルは、3つの村にそれぞれ設置し、教師、起業家、子どもたちの発育に関心のある人びと、日ごろから子どもへの支援に関わっている人びとから選ばれた10～15名のメンバーで構成されています。3か月ごとにメンバーが集まり、関連する活動についての会議と研修を行いました。

2023年8月

カウンセリングセンターの設立

子どもだけではなく、子どもに関わる大人に対するカウンセリング、アドバイスを行いました。

2023年10月

薬物防止認識プログラムを開始

青少年150名を対象に3か所で3回実施しました。

2023年11月～12月

子どもたちの識字レベルの評価、個別の成長プラン作成とプランの実行

2023年12月

プロジェクトの評価と、教師およびコミュニティ・リーダーたちとの2024年のプランニング



今後の展望

今回立ち上げたカウンセリングセンターを活用し、子どもの成長に関わる大人への支援を強化していきたいと思っています。子どもに優しく、子どもが伸び伸びと成長できる環境を築けるよう、保護者と協力していきたいです。また、本事業は継続が重要であると考えています。私たちの活動を支える基盤として基金を設立し、安定して事業を続けていきたいです。

収支報告

〈収入〉

項目	金額 (円)	内 訳
全社協からの助成金	480,000	
自己資金	273,456	
寄付金 (寺院の寄付)	48,000	
寄付金 (コミュニティの寄付)	23,040	
合 計	824,496	

〈支出〉

項目	金額 (円)	内 訳	
児童支援サークルの運営	308,880	スタッフ手当	46,080 円
		文具購入費	46,080 円
		プロジェクター等賃料	19,200 円
		参加者昼食代	107,520 円
		展覧会・表彰式開催	90,000 円
キャッチアップ・クラス運営	134,400	交通費	115,200 円
		教材・文具費	19,200 円
室内レクリエーション実施	177,600	会場費	57,600 円
		機材費	120,000 円
カウンセリングセンター運営	133,536	会場費	47,136 円
		文具費	9,600 円
		交通費	76,800 円
薬物防止認識プログラム実施	28,800	スタッフ手当	7,200 円
		教材費	14,400 円
		機材費	7,200 円
識字率レベル評価の実施	41,280	スタッフ手当	11,520 円
		参加者昼食代	14,400 円
		文具費	7,200 円
		機材費	4,800 円
		その他	3,360 円
合 計	824,496		

注) 送金額 (日本円) と受領額 (LKR) から算出 (送金時点 2023 年 5 月 19 日)
換算レート: 1 スリランカルピー (LKR) ≒ 0.45 円